住まいの飾り職人“アトムリビンテック株式会社”の広報誌［アトムニューズ］

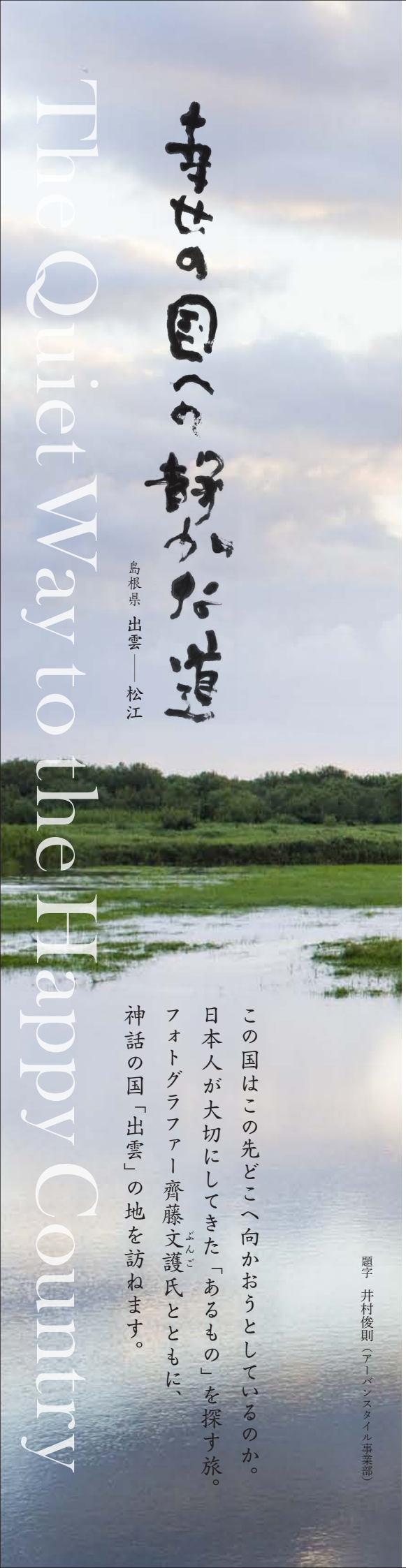
ATOM NEWS

2015 WINTER

190

instrument.

ギャラリーショップ KANAGU　東京都港区新橋 4-31-5 アトムCSタワー1階　TEL.03-3437-7750　Open 月ー金 10時ー18時　Close 土・日・祝日（第1・第3土曜日は営業）



この国はこの先どこへ向かおうとしているのか。
日本人が大切にしてきた「あるもの」を探す旅。
フォトグラファー齊藤文護（ぶんご）氏とともに、
神話の国「出雲」の地を訪ねます。

題字　井村俊則（アーバンスタイル事業部）

2015 WINTER

190

CONTENTS

3	幸せの国への静かな道	島根県 出雲―松江
7	アトムCSタワーのエコ活動	屋上緑化で環境学習 18
8	石の神様・仏様	少しずつでも伸びていく
9	住まいに役立つ仲間たち	家を守る『鍵と錠前』その2
11	古今東西たてものがたり	神奈川県大磯町 旧木下家別邸
15	What is ATOM?	アトムリビンテックって、どんな会社？ 2
17	SLOWでいこう	国分寺 カフェスロー・4［最終回］ 気軽にエコを楽しもう編
18	オフタイム	

今号の表紙

絵 ¥KIKO　詩 志岐奈津子

instrument.「simple side.」より

あなたが出会う人たちは あなたを弾きたい人たち。

どの人も、自分の楽譜をかかえ、音をさがし、
譜面を書きかえながら
ただひとつの音楽をさがしている。

人は、人を弾きながら 自分の音楽をさがしているから、
あなたが出会う人は、あなたを弾きたい人たち。

あなたを聞きたい人たち。

¥KIKO（アキコ）
画家
北海道余市町生まれ。
「いのちとつながり」を
テーマに自然のエネル
ギーを紡ぎ続ける

読者プレゼント Present

干支ぐい呑 申（さる）

酸化しにくい錫で作られた「能作」の干支ぐい呑です。ひっくり返すと2016年の干支、猿の顔が出現。リアルな猿の顔を表現しながら、底面を3点でしっかりと自立させるよう設計されています。酒器としてはもちろん、干支の置物やオブジェとしてもお使いいただけます。

［サイズ］高さ3.8×直径6cm ［材質］錫100% ［容量］約50cc ［販売価格］3,500円＋消費税

巻末のハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方のなかから抽選で10名様にプレゼントいたします。

締め切り　2016年1月31日（日）

- 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます

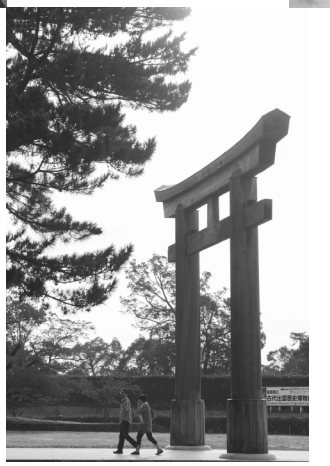
こちらの商品は、CSタワー1階「ギャラリーショップKANAGU」で展示販売しています。
どうぞお手にとってご覧ください

幸せの国へ
静かな道

The Quiet Way to the Happy Country

寺社の風(ふう)
静かな道

The Quiet Way to the Happy Country

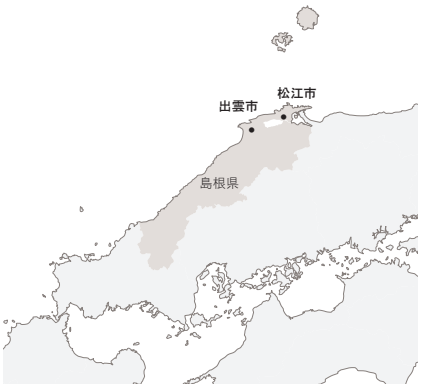


新シリーズ「幸せの国への静かな道」をスタートするにあたって

前シリーズ「アルティザンギャラリー」では、主に伝統工芸に携わる職人の方々をご紹介させていただきました。同シリーズの取材・インタビューの回数を重ねるごとに、職人の方々のポートレート写真から、またお話しいただく言葉の端々から、私たちはひとつの共通した〝あるもの〟を感じることとなりました。

その〝あるもの〟とは何か。それは日本人のＤＮＡに刻み込まれている内なる心のあり方、たとえていうなら日本人独特の美意識とでもいうようなものに根ざしているのではないかと思いいたりました。

新たにスタートした「幸せの国への静かな道」は、日本人が最も大切にしてきた〝あるもの〟を探すための写真紀行です。フォトグラファーの齊藤文護氏とともに、日本人の心のふるさとともいうべき神話の国「出雲」の地を訪ねることから始めます。



齊藤文護　一九八〇年 日本大学芸術学部写真学科卒業。日本広告写真家協会会員、京都芸術写真家協会会員。伊勢の国 一ノ宮 椿大神社 専属撮影、山王総本宮日吉大社ＨＰ写真コーナー担当。「こころみプロジェクト」「草の根っこの写真の会」主宰

This design carries the message
that makes people aware of the importance
of environmental protection.

自然素材のプッシュピン

アトム CS タワーの屋上ガーデンでは
コオロギが鳴き始め
近所の公園には木の実が育っています。
今回のプログラムで一番楽しいのは
材料探しです。
木登りが簡単にできる
大きな木と出会ったり、
小さなカタツムリやセミの抜け殻を
見つけたりします。
足下をよく見ると、働き者のアリが
巣穴に食料を運んでいます。
材料探しというより、自然観察に近いかもしれません。
そうして見つけた素材でプッシュピンをつくります。

FOREST FARM. 矢野TEA　ガーデンデザイナー　世界らん展や英国王立園芸協会主催のチェルシーフラワーショーなどで多数受賞。2003年NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」の「へんし〜ん」コーナー制作。著書に『森の標本箱』（小学館）、『HOUSE』（マガジンハウス）など。

© 2011 FOREST FARM YANO TEA

www.forest-farm.com

石の神様 仏様 19

埼玉県秩父市　童子堂 地蔵菩薩

少しずつでも伸びていく

お寺や神社の境内の片隅や道すがらにひっそりと立つ、石の神様・仏様。時によっては、立派なお堂の中に祀られた国宝の仏像よりも力強く、わたしたちに何かを語りかけてくれます。

昔の俺は、畑のきわにぽつんと立つ、小さな地蔵だった。
そこから見えるのは、通りすがりの人の足元だけ。
俺はそれしか知らなかったので、
それ以上のことを望みもしなかったんだ。

でも、ある時、歩いている人の話し声が聞こえた。
「これだけあちこち旅していても、世界はまだまだ広い。
どこに行っても、知らない景色があるんだね」と。

それから俺は、毎日、ちょっとずつ背伸びをするようになった。
そうしているうちに、いつの間にか山よりも背が高く、
世界中を見渡せるようになっていた。

人も地蔵も、無理だと思った時、そこで進歩が止まる。
毎日、ほんの少しでも、昨日より高くなろうと
努力を積み重ねることが大事だね。

童子堂 地蔵菩薩（埼玉県秩父市）

童子堂は、秩父34カ所観音霊場の22番札所。昔、子どもの間に天然痘が大流行したとき、山奥から観世音を勧請し祈祷したところ、ぴたりと治まったため、童子堂と呼ばれるようになりました。このお地蔵さんは、境内ではなく、自動車道路から参道への分岐点に立って、道標の役目をしています。

● 秩父鉄道秩父駅から徒歩40分

文・写真　**吉田さらさ**　寺と神社の旅研究家

寺、神社、仏像に関する執筆と講師が主な仕事。取材旅行を重ねるうちに、石の神様、仏様の像の魅力に気づき、写真を撮って「お言葉」を考えるのがライフワークとなった。2014年秋に、撮りためた写真をまとめた本『明日がちょっと幸せになる お地蔵さまのことば』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）を上梓。その他、『近江若狭の仏像』、『石仏・石の神を旅する』（いずれもJTBパブリッシング）など、著書多数

http://sarasa77.hatenablog.com/

HOUSE

住まいに役立つ仲間たち

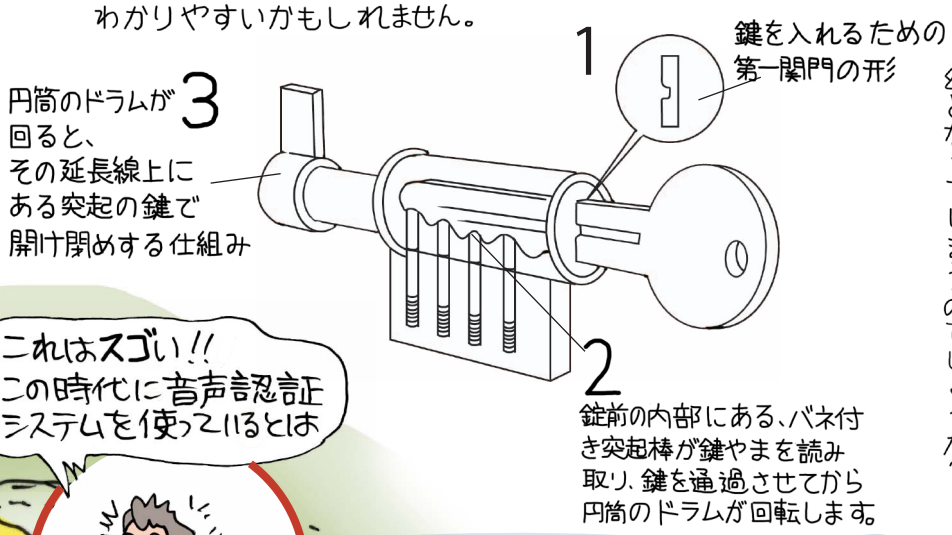
KEY & LOCK

家を守る『鍵と錠前』その二

最近観たSF映画の中で、鍵の代わりに瞳の認証でドアを開けるシーンがありましたが、これが鍵と錠前の進化の一部なのでしょう。それにしても、私の学生時代のように、ロッカーの鍵を失くしてしまったとき、プラスチック定規をナイフで削り出し、自分で鍵を作れた時代は、幻となってしまうのでしょうか？

錠前の内部が見たい

錠前がドアの中に隠れて見えなくなってきましたが
じつは、ドア自体が錠前になったと考えると
わかりやすいかもしれません。



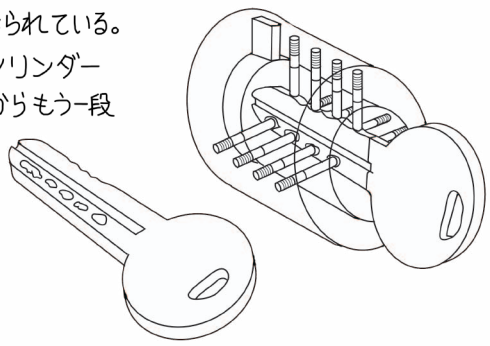
マンションでは、今や自宅の玄関に辿り着くのも大変です

都会では、マンションの建物に入る前に、自動ドアがロックされており、そこをクリアしないと 玄関のドアに辿り着けないようになってきています。

三方向からの防御

鍵やまが少なくなり、その代わり
鍵板にたくさんの穴のくぼみが
彫られている。

これまでの鍵は鍵やまに合わせてシリンダーが、内部で回転する仕組み。そこからもう一段セキュリティを高めた方式、三方向から鍵の形を認識しシリンダーを回転させる方式がとられ始めました。



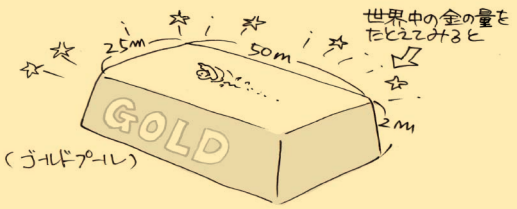
塩浦 信太郎
信太工房主宰／カラクリ作家。博物館や科学館へのカラクリの貸し出し、ホテルなどからのオーダーによる作品制作、ほかにデパート各店での展示販売などを行っている

素材を知る Part 1

金はなぜ人を魅了するのか？

これまで金は、富の象徴として装飾品などに使われてきました。その理由のひとつとして、金がほかの金属とは違って標準酸化還元とイオン化傾向が最も低い値を示すこと、つまり経年劣化が非常に少ないため、不死の象徴としても認識されてきたことが挙げられます。

金は海中の熱水鉱床として誕生しますが、鉱床は長い時を経て隆起・風化し、金鉱として（砂金が）取り出されます。軟らかく、比重が高いうえに重く、光沢があり、また非常に薄く延ばすことができる（たとえば1グラムの金を薄く延ばすと長さ3,000mまで延ばすことができる）といった特性を持ち合わせた特殊な金属といえます。



金は古代から硬貨としても使われていましたが、ほかの金属を混ぜ合わせることなく、純金のままで金貨として使われることが多い点ではほかの金属と異なっています。また、自然界の金鉱で採掘される金にはわずかですが銀の成分も含まれています。

金の特性のひとつに、その色が挙げられます。「まばゆいばかりの黄金の光」などと形容されますが、金の色はプラズモン周波数という金属ナノ粒子（金コロイド）が影響して、黒や青色、また緑や紫色に見えたりもするのです。さらに金は、熱や電気の伝導性にも優れ、加えて空気に浸食されず、熱や湿度などによる腐食に対しても強い力を秘めています。

これらの特性からも、金がいかに使いやすく貴重な鉱物であるかを理解することができるでしょう。

ピッキングと錠前の攻防

石川五右衛門、怪盗ルパンなどフィクションの世界でも歴代の有名な泥棒たちがいますが、それぞれがあの手この手で錠前を開けようと躍起です。そのなかでもよく聞くピッキングとはどのような技術なのでしょうか？

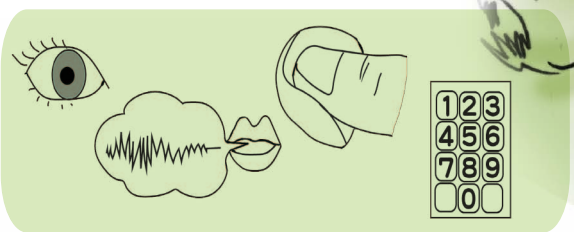
2本の棒を器用に動かし開ける技術

ホテルのカードキーって鍵？

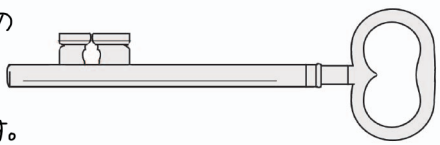
ホテルでカードキーを渡されても見たところただのカードなので戸惑います。しかしこの鍵は、毎日暗証番号を変えて使うことができ、セキュリティの手段としては、使い勝手がよいのです。

変わりゆくセキュリティ

これからますます鍵は消え、音声識別、瞳認証、暗証番号、指紋認証などに変わっていくことでしょう。



私の仕事机の壁に、数十年前にロンドンの蚤の市で購入した20cmほどもある鍵を、好きで今でも飾っています。
調べてみると、この鍵はウォード錠で、産業革命まで使われ、鍛冶職人からも「最も鍵らしいカギ」と呼ばれ、この時代にはすでに、高度な技術水準にあったことがわかります。それに比べると電子の世界の鍵では、鍵というものの形がイメージしづらいのは、私だけでしょうか？
つまり鍵も錠前も自分たちの手の届く形からまったく離れてしまった存在になりつつあるということです。



しかし、それでもなお、この先も鍵と錠前の進化は止まることはないでしょう。

古今東西 たてものがたり

大正ロマンが薫る白亜の洋館

神奈川県大磯町・旧木下家別邸

取材・文 倉田ひさし　撮影 大垣善昭

相模湾に面し、日本初の海水浴場誕生の地となった、神奈川県・大磯町。近代リゾート文化発祥の地としても知られ、かつては伊藤博文や吉田茂をはじめ、政治家や財界人がこぞって別荘を建て、別荘文化が花開いた。大正元年（一九一二年）に竣工した旧木下家別邸もそのひとつ。大磯駅前のランドマークとして、ちょうど百年後の平成二十四年（二〇一二年）、「国の登録有形文化財」に指定された。

相模湾を一望する絶景

それは「三角屋敷」と呼ばれていた。建物の正面に見える切妻屋根の三角形のことではない。相模湾を望む高台の敷地が、海側に向かって広がる鋭角三角形の形をしていたからである。

建物の正面に立って、まず眼に飛びこんでくるのがアーチのある玄関ポーチだ。庇（ひさし）の上には陽光をいっぱいに浴びたバルコニーがあり、煉瓦敷きの前庭の風景を見下ろすことができる。外観はアーリーアメリカン風の、まさに白亜の館である。

青空と美しいコントラストを見せる3階のドーマー窓

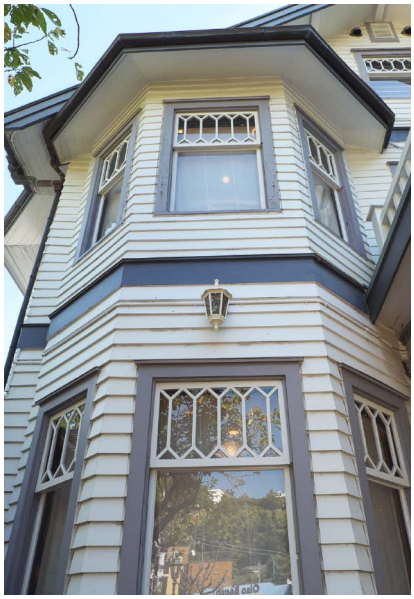
大磯の駅前に建つこの洋館は、外壁が白い塗装仕上げのイギリス下見板張りで、木造の三階建て。三階部分は屋根裏スペースである。スレート葺きの切妻交差型の屋根には、左右にドーマー窓が設けられている。

各部屋にはデザイン性にあふれたベイウインドウ（出窓）が設置され、建物全体が瀟洒（しょうしゃ）な雰囲気を漂わせている。

現在はレストランをはじめ、結婚式や各種イベントに利用され、一階にはレセプションルームやギャラリーサロンなどの小部屋があり、二階にはVIPルームやラウンジ、花嫁が身支度を整えるためのブライズルームが配置されている。

赤絨緞を敷きつめたVIPルームには、相模湾の波と泡をデフォルメして描かれたステンドグラス。遠く江の島や三浦半島が一望できるラウンジには亀甲模様のはめこみガラスの窓があり、乳白色のガラスランプが灯る佇まいは、大正ロマンの薫りを感じさせる。

アーチのある玄関ポーチの上にはバルコニー

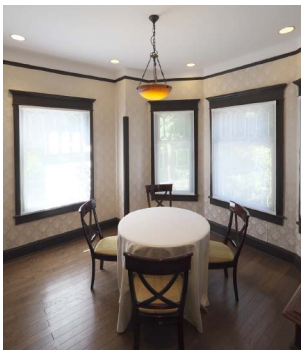

各部屋には瀟洒な雰囲気のベイウインドウ

アメリカ帰りの建築家

洋館はツーバイフォー工法で建てられ、現存するツーバイフォー住宅としては「最古のもの」とされている。

ツーバイフォーは、2インチ×4インチの大きさの材料を基準として、おもに釘と金物で留め付ける工法だ。正式には「枠組み壁工法」と呼ばれる。

この工法は、限られた資材で合理的に建てられることから、十九世紀初めのアメリカ開拓時代に考案され、日本には明治期に伝わった。明治から大正初期にかけては、日常生活の洋風化がしだいに浸透していった時代だったから、大正元年に竣工したこの「旧木下家別邸」は、当時の新建築の先駆けであったといえる。


大きな窓から明るい光があふれる2階北側のグランドルーム（左）と1階西側のサロン（右）

温かな光が差しこむ赤絨緞が敷きつめられた2階海側にあるラウンジ

亀甲模様のステンドグラスのあるラウンジから相模湾が一望できる

建築主は、東京四谷に居を構えていた貿易商の木下建平。設計を担当したのはアメリカ帰りの建築家、小笹三郎であった。

初代の所有者である木下建平に関する資料や記録は残念ながらほとんど残っていないが、小笹三郎の足跡はアメリカまで辿ることができる。

明治九年、長崎県に生まれた小笹は、十八歳で渡米し、オレゴン州立大学で学んだ。卒業後はオレゴン鉄道会社に勤務し、鉄道架設工事に従事するかたわら、自らシアトルに工事事務所を立ち上げ設計活動を開始した。

アメリカでの建築作品として代表的なものが、シアトルの東南端にあるインターナショナル地区に建つ「パナマ・ホテル」である。かのイチローが在籍したシアトル・マリナーズの本拠地「セーフコ・フィールド」にほど近い場所だ。

地下に銭湯があったホテル

「パナマ・ホテル」は、一九一〇（明治四十三）年竣工と記録されている。「旧木下家別邸」が建つ二年前ということだ。

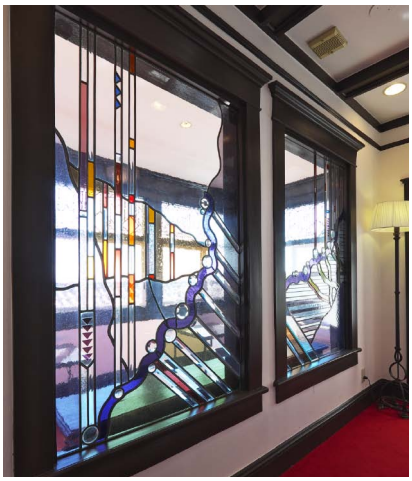
かつての日本町に建てられたホテルは、煉瓦の外壁に疑似古典様式による地上五階建て（一部六階建て）。当時は日本からの入植者や旅行者、アラスカの漁業労働者などの宿泊施設として賑わったという。地下には漢字で「橋立湯」の看板を掲げたアメリカで唯一の和式の銭湯があり、一九六三年に閉鎖されるまで日系人の憩いの場として親しまれた。

ホテルの外観は「旧木下家別邸」とは異なっているが、内装の色づかいやデザインは共通する部分が多く、小笹流の設計思想が活かされている。

小笹は一九一一（明治四十四）年に、アメリカでの生活を締めくくって帰国。東京麹町区（現・千代田区）に工務所を開設し、日本での設計活動をスタートさせた。木下家別邸の設計も、この時期のことである。

アトムの視点

邸内のレセプション・ルームには、大正期の建物では珍しい「埋め込み式」のシックでモダンな飾り棚。また竣工当時から使われてきたドアノブには、アカンサスの花がデザインされた飾り金具のほか、つまみ部分にも独特の模様が施されています。しかも部屋ごとに異なったデザインを採用するなど、建築家の細やかなセンスが感じられます。



大磯の風景と波と泡がモチーフのステンドグラス

やわらかな光を灯す、大正ロマンを彷彿とさせるデザインの照明器具

照明取り付け口は草花模様が
デザインされ換気口にもなっている

アメリカでの経験と知識をいかんなく発揮し、順風満帆な建築家人生が花開くかと思われた。ところが、その矢先のことである。突然の病を得て、帰国後わずか五年目に急逝。まだ四十歳という若さであった。

ちなみに、日本町のシンボルでもあった「パナマ・ホテル」は現在も営業をつづけ、現役である。二〇〇六年に国定歴史建造物となり、二〇一五年四月には米ナショナル・トラストにより、国宝に指定された。かつての日本町に想いを馳せて、旧跡をめぐる「銭湯ツアー」も催行されているという。

日本とシアトルを結ぶ建築

小笹の設計による大磯の「旧木下家別邸」も、「パナマ・ホテル」と同じように百年を超える歴史を重ねてきた。

大正から平成にかけて、幾たびか所有者の変遷もあった。フレンチレストランやイタリアンレストランとして利用されたのち、一時は取り壊しという存続の危機にも見舞われた。そんな中、大磯町が神奈川県の邸園文化圏再生構想の一環として建物を入手し、竣工百年後の二〇一二（平成二十四）年に「国の登録有形文化財」に指定されたのである。

そして新たな改修工事を経て、二〇一三年にピッツァ&リストランテ「大磯迎賓館」として生まれ変わった。改修された新館はダイニング・スペースとなり、ナポリから取り寄せた伝統の薪窯（まきがま）で本格ナポリピッツァが焼かれている。

本館部分はウエディングに利用されるほか、展示会や音楽会、カルチャー・スクールにも活用されている。また、シアトルの「パナマ・ホテル」と連携して、小笹三郎の資料館を共有しようという企画も進行中だという。それが実現すれば、小笹の建築を仲人役として、海を越えた新しい絆が結ばれることになるだろう。

洋館を後にして、ふと振り返ると相模湾の海の色を映したような青い空に、白亜の館が鮮やかなコントラストを見せていた。

風の中に、潮の香が忍びこんできた。

小笹が設計した、シアトルにあるパナマ・ホテル。地下には米国で唯一という銭湯があった

INFORMATION

旧木下家別邸（大磯迎賓館）

- 所在地：神奈川県中郡大磯町大磯1007
- TEL. 050-3385-0013　FAX. 050-3385-0419
- レストラン営業時間：Lunch 11:30～14:00（LO）
  Dinner 17:30～20:00（LO）
- 定休日：水曜定休　駐車スペース3台（事前予約制）
- ブライダル・パーティのお問合せ：TEL.050-3385-0418
- 交通：JR東海道本線［普通］東京より70分
  JR湘南新宿ライン［快速］新宿より69分
  「大磯」駅下車、徒歩1分
- ホームページ：http://www.oisogeihinkan.com

ガーデンスペースにある石灯籠

参考資料：「わが国明治・大正期におけるツーバイフォー住宅の変遷に関する研究」（日本ツーバイフォー建築協会）

Q1 「アトム」の名称には、どんな意味があるのですか？

A よく訊かれる質問ですが、かつて古代ギリシャの哲学者たちは、「アトム」とは「分割不可能な存在」であり、「事物を構成する最小の単位」と考えていたそうです。私どもは、ものづくりの原点として「微細なものをないがしろにしない」という意味合いや、創業者から伝えられている「基本に忠実であれ」という想いを込めて「アトム」の名を冠したブランドを誕生させたのです。

Q2 アトムブランド誕生のきっかけとは？

A もともと和家具の金物には、昔から「桐唐草前飾金具（きりからくさまえかざりかなぐ）」とか「丸宝船前飾金具（まるたからぶねまえかざりかなぐ）」、あるいは「丸半月鈎（まるはんげつかん）」「櫛形鈎（くしがたかん）」のように文様がすぐイメージできる伝統的な呼び方が商品名になっていました。ところが生活の洋風化がすすんで洋家具が普及するようになったものの、洋家具の金物にはそうした商品名がありませんでした。そこで、当社の主力商品に「アトム」の名を付けて販売していくことにしたわけです。1953年（昭和28年）発売の「アトム1号棚受」が、アトムブランド誕生の第一歩でした。

What is ATOM?

皆さんからのお問合せのうち、ベストスリーに入るのが「商標や社名のアトムってどんな意味？」という質問です。「What is ATOM?」、今回はその第２回。高橋良一社長にお聞きしました。

アトムリビンテック株式会社
代表取締役社長 **高橋 良一**

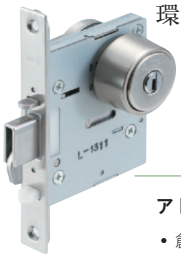
1949年生まれ。1969年入社。集配センター、研究室、営業管理部、販売部等を経て、1980年代表取締役副社長。1984年、代表取締役社長。

Q3 ブランド名が社名にもなった経緯をお聞かせください。

A おかげさまで、アトムブランド商品のヒットによって、次第に「アトム」の呼称が金物業界のなかで広く知られるようになりました。また、ちょうど商品の差別化や銘柄表示といった考え方が主流を占めるようになって、「アトム」が当社のコーポレートブランドへと発展していったんですね。こうした流れのなかで、21世紀にふさわしいビジネスプラン展開をしようという動きが起こりました。その一環として思い切って社名を変更することにしたわけです。

Q4 社名の変更はいつだったのでしょう？

A 21世紀を目前にした2000年（平成12年）6月でした。アトムブランドの認知度が高まり、業界への浸透も深まっていた「アトム」の名称に加え、住まいの技術を意味する「Living Tech」と、技術に生きる「Live in Tech」とを結びつけ、こうした理念を大切にする企業でありつづけたいという思いを込め、それらを合成して社名変更をしたのです。「高橋金物株式会社」から「アトムリビンテック株式会社」へ。それが当社の新たなスタートとなりました。



アトムリビンテック株式会社　会社概要

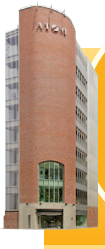
- 創業
1903年（明治36年）
- 設立
1954年（昭和29年）
- 代表者
代表取締役社長　高橋 良一
- 資本金
3億74万円（平成27年6月期末）
- 従業員数
115名（平成27年6月30日現在）
- 本社所在地
東京都台東区入谷1-27-4
- 年商
93億100万円（平成27年6月期）
- 事業内容
内装金物（住まいの金物）の企画・開発・販売

JPX
東証JASDAQ上場
証券コード：3426

当社の業績概況や事業戦略にスムーズにアクセス！ アトムリビンテックの「株主・投資家情報」サイトをぜひご活用ください。

www.atomlt.com/ir

2015 秋の内覧会レポート



東京会場
アトムCSタワー

去る10月、大阪と東京でアトムリビンテック「2015秋の内覧会」を開催いたしました。今回は会期を土曜日まで延長して、コンパクトでコストパフォーマンスに優れた新世代引戸ソフトクローズFCXや、新型下荷重式引戸用ソフトクローズなど、多彩な新製品と施工例をご紹介いたしました。東京会場では、スタッフ手づくりの「クロスワードパズル」を解いてプレゼントをゲットしていただくフロアラリーにもご参加いただきました。

大阪会場
アトム住まいの
金物ギャラリー大阪

跳ね上がり抑制付
FCX-2940-K-H/AFD-2940-K-H

戸先・戸尻ともにソフトクローズ機構を使用する場合、扉幅に制限がありましたが、2wayソフトクローズFCXでは、最小扉幅をより狭く抑えることが可能になりました。このFCXシリーズAFDタイプに「跳ね上がり抑制機構」を搭載しました。

フリクションハンドル
［ご提案品］

引戸の開閉時にハンドル部分に誤って寄りかかってしまっても、ハンドルが床に接地して引戸の動きを抑制することで、金具の破損やレールへの負担を軽減し、転倒の予防も期待できます。

下荷重式引戸ソフトクローズ
FC-122

ガイド部にソフトクローズ機能が内蔵され、面付けでの取り付けが可能。引戸の戸首加工や掘り込み加工は不要で、施工も容易な製品です。また「跳ね上がり」への対策も取り入れられた機構となっているため、スムーズな開閉を実現しています。

ご来場くださいましたお客様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

国分寺・カフェスロー・4

気軽にエコを楽しもう編

楽しむエコロジーを文化にしたい

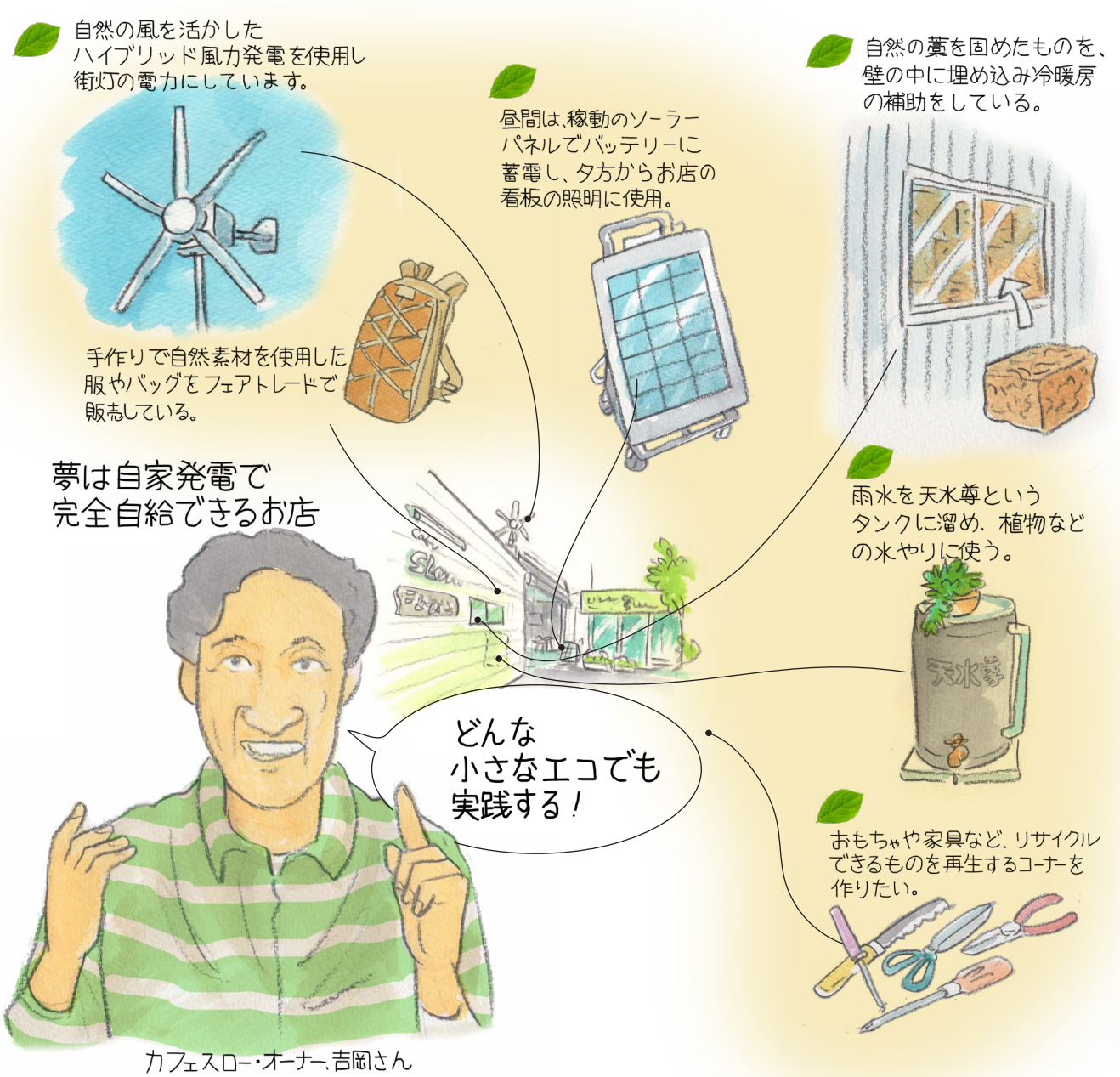
店内は天井が高く、たくさんのテーブルと椅子を配置しても十分余裕のある空間が広がります。じつはこの素敵なテーブルや椅子はすべてリユース家具。つまり、使われなくなった椅子やテーブルを手直しし再利用しているのです。

店の内装は、壁伝いに藁を一〇〇個ほど積み上げて土台にし、その上に珪藻土を塗って壁にしています。珪藻土が呼吸して適度な湿度を保つことにより、乾燥しているときでもほこりが立ちにくい効果があるとオーナーの吉岡さんは考えています。また、壁に使用しているガルバリウム鋼板は、あいだに麻の断熱材を敷いているため、夏は涼しく冬は暖かく過ごせます。ここにもカフェスローのエコ精神が浸透していました。

吉岡さんにこれからやりたいことを聞いてみたところ、カフェスローの敷地内に、壊れたおもちゃや家具などを修理したりリメイクする「修理・修繕コーナー」を新たに設けたいとのこと。「直して使えるものは使う」生活スタイル提案のきっかけにしたいと語ってくれました。

これからのカフェスローの活動も目が離せません。ウォッチし続けたいと思います。

［最終回］



スローライフを実践している人や空間をレポート

カフェスローでは、店の取り組みを通して地球に負荷のかからない生活を実践したい、この想いをベースに、エコをとことん考えることを始めました。そこから生まれたのがズーニー運動やナマケモノ倶楽部のハチドリのひとしずくなどのさまざまなエコ活動。エコロジーを考え、エコロジーを楽しむ活動が始まりました。

カフェスロー
東京都国分寺市東元町2-20-10　TEL: 042-401-8505
Mail: cafeslow@h4.dion.ne.jp

ズーニー運動：身近なものを「捨てズニ」大切にしたい運動、これは下の記事でもでてきますが、直して使えるものは使う生活スタイルの提案運動
ハチドリのひとしずく：南米エクアドルの物語。森が火事になった時、森に住むハチドリが小さな水を一滴ずつ運んで火事を消した。とても小さな力でもやり続ければ力になるという教え

取材・文・イラスト　塩浦信太郎

読者の声

貴社のルーツが飾（かざり）職人だったというのになるほどと思いました。建築金物はカタログを見るだけでもとてもおもしろいです。やりたいことのために探しまくることもあれば、フセンを貼って今度使おうと考えることも。これが欲しかった、こういうのを探していた、というセンスの良さがあると思います。
〈愛知県 S・N様 女性〉

京都の数珠の職人さんの話を興味深く拝読しました。実際に手に触れるものですのでこうして丁寧に作られていると思うとうれしいですね。建具の取っ手も同じ感覚で作ってくれるとありがたいし、大切に使われると思います。 〈埼玉県 S・M様 女性〉

田母沢御用邸は、小学校の修学旅行の宿泊先で思い出深い建物でした。広いのでいくつもの学校と一緒になり、自分の泊まっていた部屋がわからず迷子になるくらいでした。
〈東京都 もっち様 男性〉

身近に使っている1円玉ですが、コストの方が高いことを知り、驚きました。筆者のアルミニウムの説明、とてもわかりやすかったです。 〈東京都 Y・Y様 女性〉

世間でも流行の多肉植物にハマり、一般的な鉢だけでなく貝などに植えて楽しんでいます。189号を読んでいてふと思ったのですが、KANAGUさんで取り扱っている商品に植えてみたら楽しいかも!!
〈神奈川県 Y・A様 女性〉

この間テレビ「有吉くんの正直さんぽ」でお店の紹介見ました。カタログなどとはまったく別のおもしろ商品を見ましたよ。また、そのような品物をATOMNEWSでよろしくお願いします!!
〈大阪府 フリーハート様 男性〉

編集後記

前号で掲載を終えた「アルティザンギャラリー」においては、さまざまなジャンルのおもに伝統工芸に携わる職人の方々をご紹介させていただきました。そのなかで、日本独自の伝統と革新のプロセスにおける現代のワンシーンを、フォトグラファー大屋徳亮氏ならびにライターの川村千織氏のお力をお借りして、4年半（18回）にわたりレポートさせていただきました。ご登場いただいた職人の皆さま、同シリーズに全身全霊を込めていただいた大屋徳亮氏ならびに川村千織氏に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。 〈アトムニューズ編集室一同〉

INFORMATION

アトムCSタワー公式HP

1階ギャラリーショップKANAGU
新着アイテムのご紹介やイベント情報、
ATOMNEWS関連記事をお届けしています。

☞ **http://www.atomlt.com/cstower/**

「アトムCSタワー」で検索してください。
アトムリビンテック公式HPからもご覧になれます。

アトム社員がリレーでお届け オフタイムの過ごし方 Vol.34

特販事業部 主任 原 秀太郎

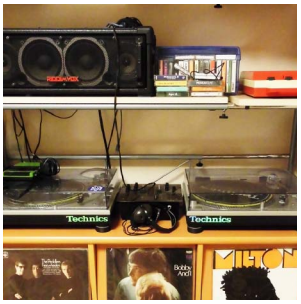
特需営業を担当し、既存商品にとらわれない
開発・提案などにも携わる

前年比66%アップ。この数字は残念ながら私の売上成績ではなく、国内におけるアナログレコードの生産量です。デジタル音源配信がすっかり主流となった昨今ですが、時代に逆行するようにアナログレコードの人気が欧米をはじめ、日本でも高まりつつあり、レコードを知らない世代からも注目を集めています。

私の場合は、CDの消費世代ではありますが、学生時代である二十余年前にジャズやソウル、ラテン、フレンチなどのジャンルの音楽イベントに関わる機会があり、アナログレコードに出合い、のめり込み、今にいたるまで収集しています。レコードの魅力を改めて考えますと、モノとしての質感・音質・プレーヤーの機械的な魅力・アナログな所作・音源がレコードでしかないことなど…。

レコード店ではジャケットを見ながら、視聴しながら、探している音源、また自分だけの思いがけないシークレットアイテムを〝掘り〟探します。東京では一時期よりは減少しましたが、今でも渋谷や西新宿にまだレコード店はあるんですよ。

悩みといえば、レアな音源を求めるあまりに、レコード1枚に数万円が必要になること、また数が増えてゆくあまりに我が家のスペースを圧迫することです。何はともあれ、自分のための趣味としか言いようがなく、共感も求めていませんが、自分に戻れる手段のひとつであることは間違いありません。一生かけても聴き尽くすことはできないほどの音源を自分のペースで〝掘り〟探しながら楽しんでいきたいです。

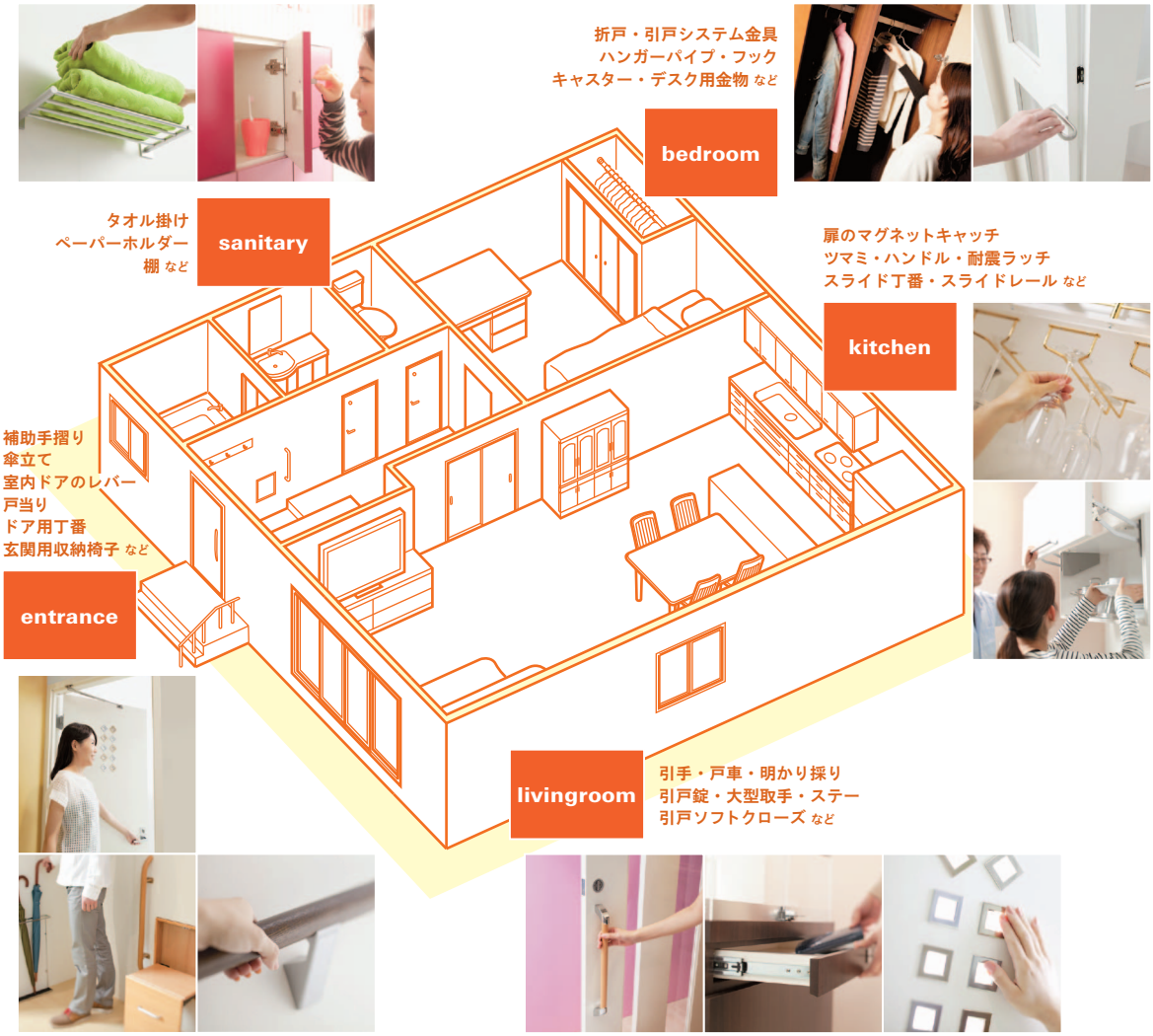


小学生の娘にジャズを聴かせるのですが、どうやら眠くなってしまうみたいです

個人情報の取り扱いについて
アンケートや読者プレゼントにご応募いただいた皆さまの個人情報は、読者プレゼントおよび「ATOMNEWS」の発送にのみ使用いたします。ご本人の承諾のない限り、第三者に提供することはありません。また、ご応募の集計結果は個人を識別できない形で管理の上、「ATOMNEWS」の企画・編集・制作の参考にさせていただきます。

ここにも、あそこにも、ATOMの金物。

アトムブランドは信頼と高品質の証。これからも快適な暮らしを支えていきます。



住まいの飾り職人
ATOM LIVINTECH アトムリビンテック株式会社

■本社／〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600（代表）
特販事業部　TEL.03-3876-0603　FAX.03-3876-8833
卸売事業部　TEL.03-3876-0602　FAX.03-3876-4435

■アトムCSタワー／〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5
アーバンスタイル事業部　TEL.03-3437-3673　FAX.03-3437-3565
亜吐夢金物館　TEL.03-3437-3440　FAX.03-3437-3565

■アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所／〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
TEL.06-6821-7281　FAX.06-6821-7282

■札幌営業所／〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F
TEL.011-748-3113　FAX.011-753-3015

■前橋営業所／〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
TEL.027-223-2651　FAX.027-223-2661

■広島営業所／〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F
TEL.082-291-4235　FAX.082-291-4880

JPX 東証JASDAQ上場 証券コード：3426

http://www.atomlt.com

「ATOMNEWS」2015年12月号 Vol.190 ●編集・発行／アトムリビンテック（株） アトムCSタワー ATOMNEWS編集室 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5
★次号191号（春号）は2016年3月発行です。本誌は再生紙・ベジタブルオイルインキを使用しています。